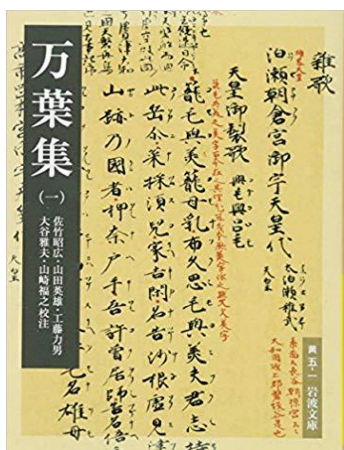


# 『万葉集』に詠われた「ひょうご」ゆかりの地

神戸・兵庫の郷土史Web研究館資料 dt28man.pdf



『万葉集』は日本最古の歌集で、5世紀～8世紀に詠まれた歌4,500余首が全20巻に収められています。収録された歌の作者は、天皇など皇族、貴族、官僚歌人から農民まで幅広い階層から。また、ゆかりの地も畿内の大和（奈良）を中心とした兵庫県内をはじめ、東北から九州まで各地方に及んでいます。

有名な歌人大伴家持が編集を手がけ、奈良時代末期に成立したと考えられていますが、まだまだ謎の多いところ。『万葉集』の歌は、仮名文字が未だ開発されておらず、万葉仮名という独特の表記で、全文が漢字で書かれ、一応「漢文」の型はとっているが日本語の語順で書かれ、漢字は表意的・表音的に混在使用されています。



現代文からすると少し読みづらい表記ですが、万葉仮名を尊重しつつ判読し易い表記にて「兵庫県内（瀬戸内海沿岸の地域）」ゆかりとする歌を収録しました。（暫定版）

巻	歌番	収録歌	詠み人	ゆかりの地	市町
1	14	高山と耳梨山とあひし時立見尔来之伊奈美（印南）国原	中大兄	印南国	明石市、加古川市、稲美町、播磨町
3	250	珠藻かる敏馬を過ぎて夏草の野嶋之崎に舟近づきぬ	柿本朝臣人麻呂	敏馬、野島	神戸市淡路市
3	251	粟路（淡路）の野嶋以前の浜風に妹が結びし紐吹きかへす	柿本朝臣人麻呂	淡路、野島	淡路市
3	252	あらたへの藤江之浦に鱸（すすき）釣る白水郎とか見らむ旅ゆく吾を	柿本朝臣人麻呂	藤江の浦	明石市
3	253	稲日野（印南野）も行き過ぎかてに思へれば心恋しき可古能嶋（加古の湊）見ゆ一云湖見ゆ	柿本朝臣人麻呂	印南野、加古の湊	明石市、加古川市、稲美町、播磨町
3	254	留火之明（明石）大門尔入日哉こぎ別れなむ家のあたり見す	柿本朝臣人麻呂	明石の大門	明石市、神戸市
3	255	天離（さか）る夷（ひな）の長道（ながち）ゆ恋ひくれば明（明石）門より倭（大和）嶋見ゆ	柿本朝臣人麻呂	明石の門	明石市、神戸市

巻	歌番	収録歌	詠み人	ゆかりの地	市町
3	256	武庫乃海船にはならしいざりする海人の釣船波の上ゆ見ゆ (飼飯海乃庭好有之から薦の乱れ出づ見ゆ海人の釣船)	柿本朝臣 人麻呂	武庫の海	尼崎市、西宮市
3	279	吾妹児に猪名野は見せつ名次山角松原何時可将来示	高市連黒人	石吹山? 角の松原	伊丹市、尼崎市、西宮市
3	280	いざ児ども倭(大和)へ早く白菅の真野乃榛原(はりはら)手折利て行かむ	高市連黒人	真野の榛原	神戸市
3	281	白菅の真野之榛原往くさ来さ君こそ見らめ真野之榛原	黒人の妻	真野の榛原	神戸市
3	283	墨江(すみのえ)の得名津(えなつ)に立ちて見渡せば六児乃泊(むこのとまり)ゆ出流船人	高市連黒人	武庫の泊	尼崎市、西宮市
3	303	名くはしき印南の海の沖つ波千重に隠るぬ大和島地は		印南の海	明石市、加古川市、播磨町
3	354	縄(那波)乃浦に塩焼く火気(煙)夕されば行きすぎかねて山に棚びく	日置少老	縄の浦	相生市
3	355	大汝(なみつ)少彦名のいましけむ志都乃石室(静の岩屋)は幾世経ぬらむ	生石村主 真人	生石(おおしこ)の岩屋	高砂市
3	357	縄(那波)の浦ゆ背向(そがひ)尔所見奥(沖つ)嶋漕ぎみる舟は釣りしすらしも	山部宿祢 赤人	那波、蔓島	相生市
3	358	武庫浦を漕ぎ廻(み)る小舟粟嶋を背(そがひ)に見つつ乏(とも)しき小舟	山部宿祢 赤人	武庫 淡路島	尼崎市、西宮市、淡路市
3	359	阿倍(阿閉)の島鶺の棲む磯によする浪間無くこのころ日本(やまと)し思ほゆ	山部宿祢 赤人	阿閉の島	播磨町
3	388	海若(わたつみ)は霊(くす)しきものか 淡路嶋中に立て置きて 白浪を伊与に回らし 座待月開(明石)乃門ゆは 夕されば汐を満たしめ 明けされば潮を干しむ 潮騒の浪を恐み 淡路嶋磯隠りみて 何時しかもこの夜明けむと さもらふに寝の寝かてねば 滝の上の浅野の雉 開けぬとし立ち騒くらし いざ児等敢へて榜ぎ出む 庭も静けし	若宮年魚 麻呂	淡路島 明石の門 浅野	淡路市、明石市、神戸市
3	389	嶋伝を敏馬乃埼を許藝廻(漕ぎ回る)者日本(やまと)恋しく鶴さはに鳴く	若宮年魚 麻呂	敏馬の埼	神戸市
3	413	須麻乃海人之塩焼衣乃藤衣間遠にしあれば未だ着なれず	大網公人 主	須磨の海人	神戸市
3	449	妹と来し敏馬能埼を帰るさに独し見れば涙ぐましも	太宰師大 伴卿	敏馬の埼	神戸市
3	450	行くとさにふたり吾見しこの埼をひとり過ぐれば心悲しむ	太宰師大 伴卿	この埼	神戸市
3	460	(長歌)・・・有間山雲居たなびき雨に降りきや	坂上郎女	有馬山	三田市、神戸市
4	490	真野之浦の淀の継橋情(心)ゆも思へや妹が夢にし見ゆる		真野の浦	神戸市

巻	歌番	収録歌	詠み人	ゆかりの地	市町
4	509	淡路を過ぎ 粟島をそがひに見つ・・・稲日 都麻 浦みを過ぎて・・・家乃嶋(家島) 荒磯 の上に . . .	丹比真人 笠麻呂	淡路、印 南、家島	淡路市、明石 市、加古川 市、播磨町、 姫路市
6	934	朝なぎに梶の音聞こゆ御食つ国野島の海人の舟 にしあるらし	山部宿祢 赤人	野島	淡路市
6	935	於播磨国印南野 名寸隅(なきすみ)乃船瀬従所見 淡路嶋松帆 乃浦に 朝なぎに玉藻苅りつつ 夕なぎに藻塩 やきつつ 未通女ありとは聞けど 見に行かむ よしの無ければ 太夫の情はなしに 手弱女の 思ひたわみて た廻(もとほ)り吾はそ恋ふる 船楫を無み	時笠朝臣 金村	播磨国印南 野、淡路 島、松帆の 浦、	淡路市、明石 市、加古川 市、播磨町
6	936	玉藻刈る海未通女ども見に行かむ船楫もがも浪 高くとも	時笠朝臣 金村	江井ヶ島	明石市
6	937	往き廻り見とも飽かめや名寸隅の船瀬の浜にし きる白波	時笠朝臣 金村	江井ヶ島	明石市
6	938	やすみしし吾大君の 神ながら高知らせる 印 南野の邑美の原の 荒砂の藤井(藤江)の浦に 鮪釣ると海人船騒き 塩焼くと人そ多なる 浦 をよみうべも釣はず 浜をよみうべも塩焼く 在り通ひ見さくも著し 清き白浜	山部宿祢 赤人	印南野、邑 美の原、藤 江の浦	淡路市、明石 市、播磨町
6	939	奥つ波辺波静けみ漁(いざ)りすと藤江乃浦に 船そ騒ける	山部宿祢 赤人	藤江の浦	明石市
6	940	不欲見(印南)野の浅茅おし靡(な)べさ寝る 夜の日(け)長くあれば家し思はゆ	山部宿祢 赤人	印南野	明石市、加古 川市、稲美 町、播磨町
6	941	明方(明石潟)潮干の道を明日よりは下咲 (え)ましけむ家近づけば	山部宿祢 赤人	明石潟	明石市
6	942	あぢさはふ妹が眼かれて 敷たへの枕もまかず 桜皮まき作れる舟に ま楫貫き吾がこぎくれば 淡路の野嶋も過ぎ 伊奈美(印南)孀(妻)辛 荷乃嶋の 島の間ゆ吾家を見れば 青山のそこ とも見えず 白雲も千重になり来ぬ こごたむ る浦のことごと 行きかくる島の埼々 隅もお かず憶ひそ吾がくる 旅の日(け)長み	山部宿祢 赤人	淡路の野 島、室津、 唐荷島	淡路市、明石 市、加古川 市、播磨町、 たつの市
6	943	玉藻刈る辛荷乃嶋に島みする鵜にしもあれや家 念はざらむ	山部宿祢 赤人	唐荷島	たつの市
6	944	島隠り吾が傍ぎ来れば羨しかも大和へ上る真能 野の船	山部宿祢 赤人	真野?	神戸市?
6	945	風吹けば浪か立たむと伺候尔(さもらひに)都 太乃細江尔浦隠り居り	山部宿祢 赤人	薦(津田) の細江	姫路市
6	946	御食向ふ淡路乃嶋に 直向ふ三犬女(敏馬)乃 浦の 沖へには深海松採り 浦みには名告藻苅 る 深海松の見まく欲しけど . . .	山部宿祢 赤人	淡路島、敏 馬の浦、	淡路市、神戸 市
6	947	為間(須磨)の海人の塩焼衣のなれなばか一日 も君を忘れて思はむ	山部宿祢 赤人	須磨の海人	神戸市

巻	歌番	収 録 歌	詠み人	ゆかりの地	市町
6	1065	過敏馬浦時作歌 八千戈の神の御代より 百船の泊つるとまりと 八島国百船人の 定めし三犬女（敏馬）乃浦は 朝風に浦波さわき 夕浪に玉藻は来寄る 白ま なご清き浜辺は 行き還り見れども飽かず う べしこそ見る人毎に 語りつぎ憊ひけらしき 百代へて憊はえ行かむ 清き白浜	田辺福麻呂	敏馬の浦	神戸市
6	1066	まそ鏡見宿女（敏馬）乃浦は百船の過ぎて行く べき浜ならなくに	田辺福麻呂	敏馬の浦	神戸市
6	1067	浜清み浦うるはしみ神世自（より）千船湊大和 太（大輪田）乃浜	田辺福麻呂	大輪田の浜	神戸市
7	1140	しなが鳥居名野（猪名野）を来れば有間山夕霧 立ちぬ宿りはなくて		猪名野、有馬山	伊丹市、三田市、神戸市
7	1141	武庫河の水尾を速みか赤駒の足がくたぎちに濡 れにけるかも		武庫川	尼崎市、西宮市、宝塚市、神戸市
7	1142	命をし幸く吉（よ）けむと石走る垂水の水を結 びて飲みつ		垂水の水	神戸市
7	1162	円方（的形）之湊之渚鳥浪立也妻呼び立てて辺 に近づくも		的形	姫路市
7	1166	いにしへにありけむ人の求めつつ衣に摺りけむ 真野の榛原		真野の榛原	神戸市
7	1178	印南野は行き過ぎぬらし天伝ふ日笠浦波立有所 見 一云 思賀麻（飾磨）江は漕ぎすぎぬらし		印南野、日笠浦、飾磨江	加古川市、高砂市、姫路市
7	1179	家にして吾は恋ひなむ印南野の浅茅が上に照り し月夜を		印南野	明石市、加古川市、稲美町、播磨町
7	1180	荒磯越す波を畏み淡路島見ずか過ぎなむここだ 近きを		淡路島	淡路市、明石市、神戸市
7	1189	大海に荒な吹きそしなが鳥居名之湖（猪名の 湊）に舟泊つるまで		猪名の湊	尼崎市
7	1207	粟島にこぎ渡らむと思へども 赤石の門浪いま だ騒げり		淡路島、明石の門	淡路市、明石市、神戸市
7	1229	わが舟は明石之浦にこぎあ（泊）はてむ奥 （沖）へな放り（さかり）さ夜ふけにけり		明石の浦	明石市、神戸市
8	1418	石激（走）る垂見（垂水）の上のさわらびの萌 え出づる春になりにけるかも	志貴皇子	垂水	神戸市
9	1772	後（おく）れみて吾はや恋ひむ稲見野（印南 野）の秋萩みつつ去なむ子故に	阿倍大夫	印南野	明石市、加古川市、稲美町、播磨町
9	1776	絶等寸（たゆらき）の山の峰の上の桜花咲かむ 春へは君を偲ばむ	播磨娘子	絶等寸の山	姫路市
9	1801	古のますら男子（おのこ）の相競い 妻問いし けむ葦屋乃菟名日処女の奥つ城（墓）を 吾立 ち見れば長き世の 誇りにしつつ憊ひにせむと 玉梓の 道の辺近く岩構へ造れる塚を・・・	田辺福麻呂	蘆屋、菟名日処女、塚	芦屋市、神戸市

巻	歌番	収録歌	詠み人	ゆかりの地	市町
9	1802	古の信太壮士の妻問ひし菟名日処女の奥つ城ぞこれ		菟名日処女	芦屋市、神戸市
9	1809	葦屋の菟名日処女の八年子の・・・茅淳壮士菟原壮士の伏屋焚き・・・娘子墓中に造り置き壮士墓・・・	高橋連虫麻呂	菟名日処女、菟原壮士、墓	芦屋市、神戸市
9	1810	葦屋の菟原娘子の奥つ城で行き来と見れば哭(ね)のみし泣かゆ	高橋連虫麻呂	菟原娘子	芦屋市、神戸市
9	1811	墓の上の木枝なびけり聞きしごと陳努(ちぬ)壮士にし依りにけらしも	高橋連虫麻呂	打出	芦屋市、神戸市
10	2178	妻籠る矢野の神山露霜に匂ひそめたり散らまく惜しも	柿本朝臣人麻呂	矢野の磐座神社	相生市
11	2708	しなが鳥居名(猪名)山響(とよ)に行く水の名のみよそりしこもり妻はも		猪名山	伊丹市、川西市、猪名川町
11	2752	吾妹子を聞き都賀野辺のしない合飲木吾は俣び得ず間なくし思へば		都賀野(西灘?)	神戸市?
11	2757	王(おほきみ)の御笠に逢へる在間(有馬)菅ありつつみれど事なき吾妹		有馬菅	三田市、神戸市
11	2771	吾妹子が袖を頼みて真野の湯の小菅の笠を着ずて来にけり		真野	神戸市
11	2772	真野池の小菅を笠に縫はずして人の遠名に立つべきものか		真野池	神戸市
12	3004	久方の天つみ空に照れる日の失せなむ日こそ吾が恋やまめ	遣新羅使人	飾磨川夜泊の際	姫路市
12	3025	石走る垂水の水のはしきやし君に恋ふらくわが情から		垂水の水	神戸市
12	3064	人皆の笠に逢うふと云ふ有間(有馬)菅在りて後にもあはむとぞ思ふ		有馬菅	三田市、神戸市
12	3197	住吉の岸に向減(へ)る淡路島あはれと君を言はぬ日はなし		淡路島	淡路市
12	3198	明日よりは将行乃河(いなむのかわ)の出でて去なば留れる吾は恋ひつつやあらむ		将行乃河(加古川)	加古川市高砂市
12	3200	飼飯(慶野)乃浦に依する白波しくしくに妹がすがたは思はゆるかも		慶野の浦	南あわじ市
14	3547	味梟のすむ須沙能居伊利江のこもりぬのあないきづかし見ず久にして		大輪田、須佐野?	神戸市?
15	3578	万葉集巻15の巻頭歌 武庫の浦の入江の渚鳥羽ぐくもる君を離れて恋に死ぬへし	遣新羅使人	武庫の浦	尼崎市、西宮市
15	3595	朝開き漕ぎ出て来れば牟故能宇良(むこのうら)の潮干の潟に鶴(たず)が声すも	遣新羅使人	武庫の浦	尼崎市、西宮市
15	3596	吾妹子が形見に見むを印南都麻白波高み外にかも見る	遣新羅使人	印南	明石市、加古川市、稲美町、播磨町
15	3605	和多都美乃宇美尔伊弓多流思可麻河(飾磨川)泊絶えむ日にこそ吾が恋止まめ	遣新羅使人	飾磨川	姫路市
15	3606	珠藻かる乎等女(敏馬)を過ぎて夏草の野嶋が埼に庵す我は	遣新羅使人	敏馬、野島の埼	神戸市、淡路市

巻	歌番	収 録 歌	詠み人	ゆかりの地	市町
15	3607	白栲の藤江の浦に漁する海人とや見らむ旅行く 吾を	遣新羅使 人	藤江の浦	明石市
15	3608	天離る鄙の長道を恋ひ来れば明石の門より家の あたり見ゆ	遣新羅使 人	明石の門	神戸市、明石 市
15	3609	武庫能宇良の庭良くあらし漁（いざり）する海 人の釣舟波の上ゆ見ゆ	遣新羅使 人	武庫の浦	尼崎市、西宮 市
15	3627	朝されば妹が手に巻く 鏡なす美都能波麻びに 大船に真指繁貫き 可良久尔（韓国）に渡り行 かむと 直向ふ美奴面（敏馬）を指して 潮待 ちて水脈導き行けば 沖辺には白浪高み 浦廻 より傍ぎて渡れば 我妹子に安波治（淡路）の 島は 夕されば雲居隠りぬ さ夜ふけて行方を 知らに あが心安可志能宇良（明石の浦）に 船とめて浮寝をしつつ わたつ海の沖へを見れ ば いざりする海人のをとめは 小船乗りつら らに浮きけり・・・伊徹之麻（家島）は雲居 に見えぬ 吾が思へる心なぐやと 早く来て見 むと思ひて 大船を漕ぎわが行けば 沖つ浪高 く立ち来ぬ 外のみに見つつ過ぎ行き・・・	遣新羅使 人	敏馬、淡 路、明石の 浦、家島	神戸市、淡路 市、明石市、 姫路市
15	3718	伊徹之麻（家島）は奈尔許曾安里家礼うな原を 吾が恋ひ来つる妹もあらなくに	遣新羅使 人	家島	姫路市
15	3720	吾妹子を行きて早やみむ安波治之麻（淡路島） 雲居に見えぬ家づくらしも	遣新羅使 人	淡路島	淡路市
16	3804	斯くのみでありけるものを猪名川之奥平深目而 が思へりける		猪名川	尼崎市
17	3893	昨日こそ舟出はせしか鯨魚（いさな）とり比治 奇（響？）の灘を今日見つるかも		響の灘（尾 上神社 の）？	加古川市
17	3894	淡路島門渡る船の楫間にも吾は忘れず家をしそ 思ふ		淡路島門	淡路市
17	3895	たまはやす武庫能和多里に天伝ふ日の暮れ行け ば家をしそ思ふ		武庫の渡	尼崎市、西宮 市
17	3899	海人をとめ漁（いざり）たく火のおぼほしく都 努（角）乃松原おもほゆるかも		角の松原	西宮市
17	3932	須麻ひとの海辺常去らず焼く塩のからき恋をも 吾（あれ）はするかも	平群氏女 郎	須磨	神戸市
20	4301	伊奈美野（印南野）の赤ら柏は時はあれど君を 吾が思ふ時はさねなし		印南野	明石市、加古 川市、稲美 町、播磨町

【参考資料】 『萬葉集釋注』伊藤博（集英社）、『萬葉集全注』伊藤博ほか14人（有斐閣）、  
『万葉集全解』多田一臣（筑摩書房）、『万葉兵庫』阪口保（半どんの会出版部）

【URL】 <http://kdskenkyu.saloon.jp/pdf/dt28man.pdf>  
<http://kdskenkyu.saloon.jp/kdsdata.htm>